

令和元年度 各種学力調査の結果について

- 平成 3 1 年度（令和元年度）品川区学力定着度調査の結果について
- 平成 3 1 年度（令和元年度）児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果について
- 平成 3 1 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

平成31年度（令和元年度）品川区学力定着度調査の結果について

- 1 調査日 平成31年4月16日(火)
 2 調査対象 小学校・義務教育学校（前期課程）
 中学校・義務教育学校（後期課程）
 3 調査対象人数 第2～6学年 12,580人
 第7～9学年 4,645人

- 4 調査内容
 (1) 教科に関する調査
 第2、3学年 国語、算数
 第4、5、6学年 国語、社会、算数、理科
 第7、8、9学年 国語、社会、数学、理科、英語
 (2) 生活習慣や学習環境に関する調査
 ・総合質問紙調査（自己認識、社会性、学級環境、生活・学習習慣に関する意識について）

5 各教科の平均正答率(%) ※ピンク色の部分は、全国に比べて平均正答率が低い教科。

<第2学年>		<第4学年>		<第5学年>		<第6学年>		<第7学年>		<第8学年>		<第9学年>		
	品川区	全国		品川区	全国		品川区	全国		品川区	全国		品川区	全国
国語	83.9	80.3	国語	71.9	68.1	国語	77.6	73.8	国語	72.4	70.4	国語	67.2	66.4
算数	87.3	84.8	社会	71.3	67.6	社会	61.2	55.6	社会	63.6	63.6	社会	60.4	65
			算数	78.5	74.6	算数	71.0	67.3	算数	70.1	63.8	数学	55.3	53.7
			理科	64.9	64.7	理科	67.7	68.8	理科	64.8	59.9	理科	53.3	58.6
									英語※	87.9	85.9	英語	60.1	61.5
<第3学年>														
国語	78.7	73.7												
算数	77.3	74.5												

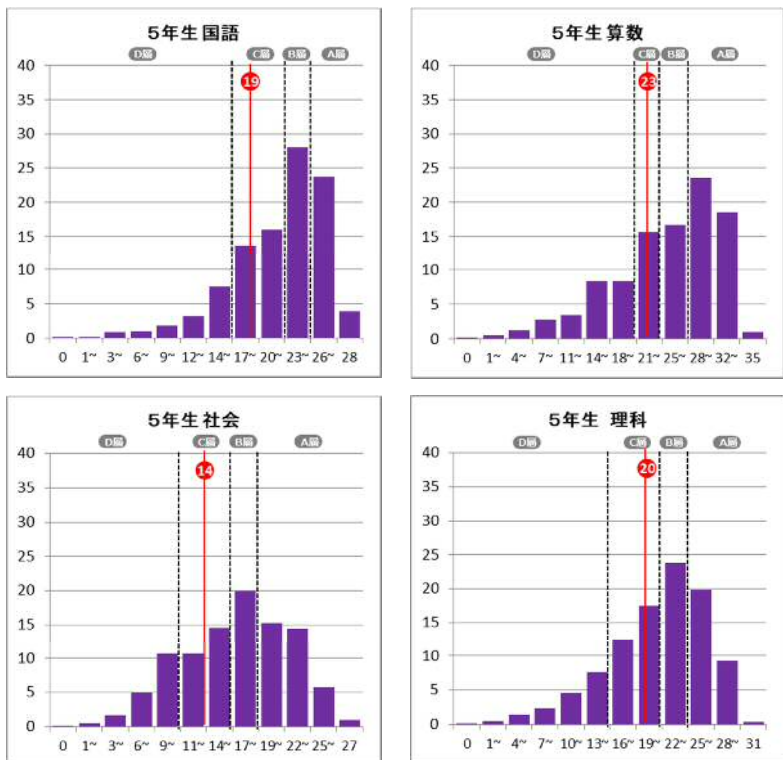
※小学校英語の内容である「ハイ、イングリッシュ」を実施。全国は前年度の全国平均正答率。

6 教科に関する調査の結果概要

品川区正答率分布の四分位：上位層（A層）から下位層（D層）までの25%刻みで4層に分類した。赤字数字および赤線は、その教科の目標値(※)を示す。

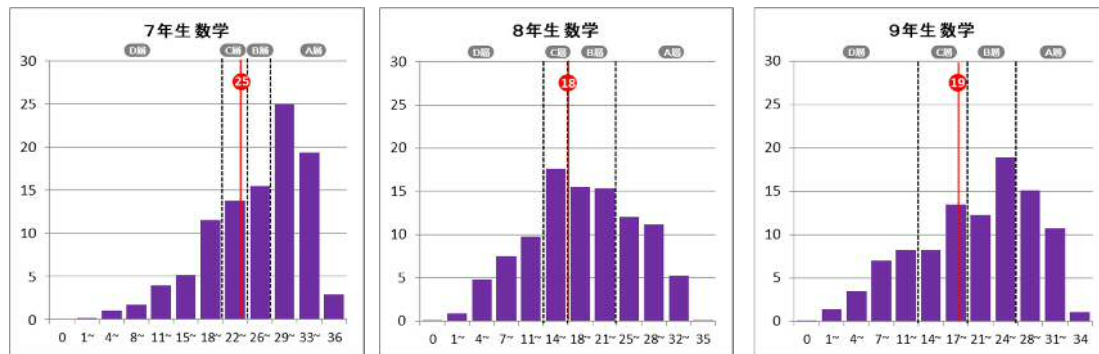
※ 教科の目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、児童・生徒が正答できることを期待した問題数

【第5学年における各教科の正答率分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】



★C層においても、半数は目標値に達している。国語・算数に比べ社会・理科の正答率は低い。

【第7～9学年における数学の正答率分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】



★A・B層は目標値に達している。第7学年に比べ、第8学年および第9学年は高い正答数をとる生徒の割合が少なくなる。

7 課題の見られる問題例

【第8学年 比例・反比例（記述）】

真樹さんは、おうぎ形の中心角の大きさによって、できる形が変わることに気がつきました。そこで、おうぎ形の中心角の大きさと底面になる円の直径の長さの関係について調べたところ、次のことがわかりました。

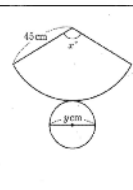
【わかったこと】

側面となる半径が45cmのおうぎ形の中心角の大きさを α 、底面になる円の直径の長さを g cmとすると、 α と g の関係は、次のような式で表される。

$$\alpha g = 2\pi \times 45 \times \frac{\pi}{360}$$

$$g = 90 \times \frac{\pi}{360}$$

$$g = \frac{\pi}{4}$$



次の問いに答えなさい。

(1) 自ページの【わかったこと】から、 α と g の間にある関係が読み取れていることがわかります。その関係について、正しく記述しているものを1～4から1つ選びなさい。

- g は α に比例する。
- g は α に反比例する。
- g は α に比例している。反比例もしている。
- α と g の関係は、比例・反比例のいずれでもないが、関数である。

(2) 真樹さんは、半径が45cmのおうぎ形を側面とし、底面になる円の直径が20cmの円錐の作りを作ることになりました。そこで、まき刺になるおうぎ形の中心角の大きさを求めたいと思います。自ページの【わかったこと】を用いて、中心角の大きさを求める方法を説明しなさい。ただし、説明にその角を求めなければならないものはありません。

(2) 正答例

【わかったこと】の中心角の大きさと直径の長さの関係を表す式 $y = \frac{1}{2}x = 20$ を代入して、 x の値を求める。

正答率 14.1%

(全国 11.2%、目標値 30.0%)

無答率 51.4%

▶与えられた式から解決する方法を数学的に説明することが難しい。また、他の学年においても、なぜそのように考えたのかの理由や根拠をもとに説明することに課題がある。

平成31年度（令和元年度）児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果について

1 調査日 令和元年7月4日(木)

2 調査対象 小学校・義務教育学校（前期課程）第5学年
中学校・義務教育学校（後期課程）第8学年

3 調査人数 第5学年 2,413人
第8学年 1,464人

4 調査内容

- (1) 教科に関する調査
国語、社会、算数・数学、理科、英語(第8学年のみ)
- (2) 生活習慣や学習環境に関する調査
・児童・生徒質問紙調査〔学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等〕
・学校質問紙調査〔指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備等〕

5 各教科の平均正答率(%)

※都の正答率は抽出校による。またピンク色の部分は都に比べて正答率が低い教科。

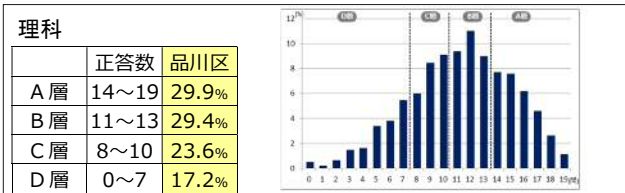
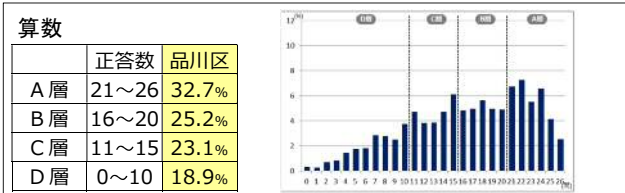
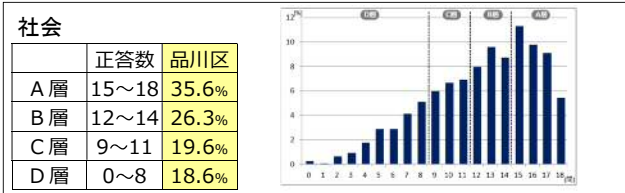
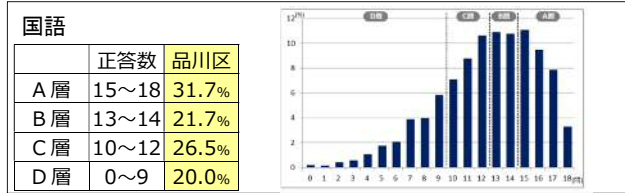
	5年	品川区	東京都	8年	品川区	東京都
国語		68.9%	67.6%	国語	70.7%	71.7%
社会	68.3%	66.7%		社会	48.4%	50.9%
算数	63.2%	60.1%		数学	53.2%	52.9%
理科	59.3%	56.8%		理科	47.6%	49.3%
				英語	55.4%	55.9%

6 教科に関する調査の結果概要

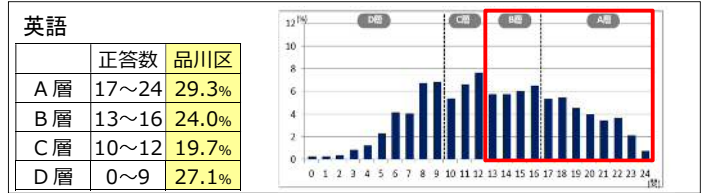
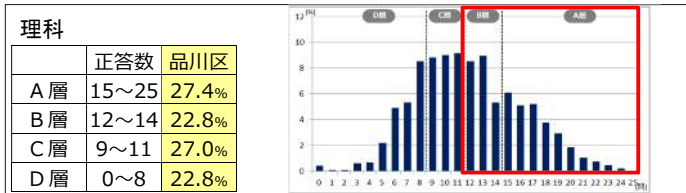
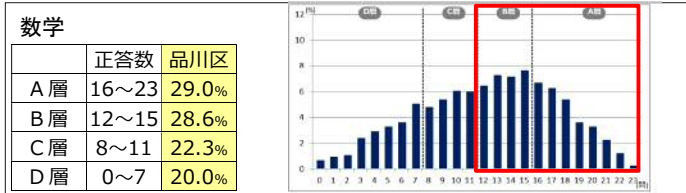
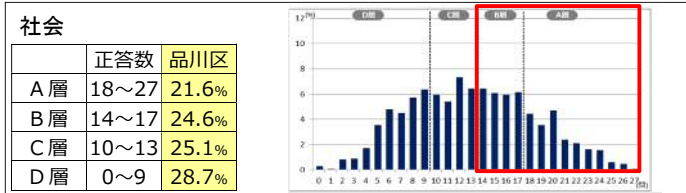
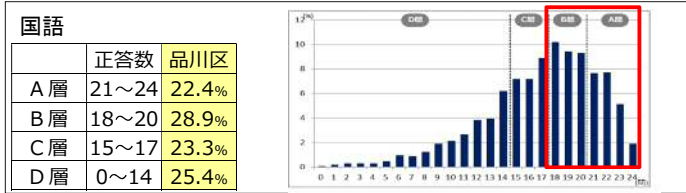
右側【正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】

左側【東京都と比較した品川区における各層の割合】 東京都の正答数分布を、上位層（A層）から下位層（D層）までの25%刻みで4層に分類し、品川区における各層の割合を示した。

小学校・義務教育学校（前期課程） 第5学年



中学校・義務教育学校（後期課程） 第8学年

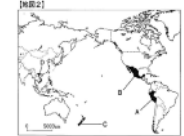


7 課題の見られる問題例（正答率が低い問題例）

【中学校調査】社会 ③ - (5)

(5) たかひろくんは、アメリカ合衆国が参加しているAPEC（アジア太平洋経済協力）について調べました。次の【説明文】は、下の【地図2】中の[]で示したAPECに加盟しているA～Dのいずれかの国の様子についてまとめたものです。下の【表】のA～Eは、【地図2】中のA～Dのいずれかの国の2015年における輸出額、主要輸出品の輸出額に占める割合、輸出相手国の輸出額に占める割合を示したものです。【説明文】で述べている国の位置として最も適切なものを、【地図2】中のA～Dから1つ選び、記号で答えなさい。また、【説明文】で述べている国の2015年における輸出額、主要輸出品の輸出額に占める割合、輸出相手国の輸出額に占める割合として最も適切なものを、【表】のA～Eの中から1つ選び、記号で答えなさい。

【説明文】
この国は、南緯で太平洋に面している。国産品は主に農産物であり、輸出の相手国は主に先進国である。主要輸出品は、主に農産物であり、輸出の相手国は主に先進国である。2015年の輸出額は、主要輸出品の輸出額に占める割合が最も高い。輸出相手国の輸出額に占める割合は最も低い。



国	輸出額 (10億ドル)	主要輸出品の輸出額に占める割合 (%)	輸出相手国の輸出額に占める割合 (%)
A	2000	20.0	10.0
B	3000	30.0	15.0
C	4000	40.0	20.0
D	5000	50.0	25.0
E	6000	60.0	30.0

正答 (国の位置) B (輸出額等) A 正答率 16.9%

▶貿易に関する資料を用いて、主な国の位置と産業の特色とを関連付けて捉えることに課題がある。

★第5学年は、どの教科もD層が20%以下である。

★第8学年は、国語・数学・英語と比べて社会・理科のA・B層の割合が少ない。

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

- 1 調査日** 平成 31 年 4 月 18 日(木)
- 2 調査対象** 小学校・義務教育学校（前期課程）第 6 学年
中学校・義務教育学校（後期課程）第 9 学年
- 3 調査人数** 第 6 学年 2,402 人
第 9 学年 1,541 人

- 4 調査内容**
- (1) 教科に関する調査
国語、算数・数学、英語(第 9 学年のみ)
- (2) 生活習慣や学習環境に関する調査
・児童・生徒質問紙調査〔学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等〕
・学校質問紙調査〔指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備等〕

5 各教科の平均正答率(%)

6 年	品川区	東京都	全国
国語	68%	65%	64%
算数	73%	70%	67%

9 年	品川区	東京都	全国
国語	75%	74%	73%
数学	62%	62%	60%
英語	60%	59%	56%
英語 読むこと・聞くこと・書くこと	34%	-	31%

※小数点以下を四捨五入した結果を示す。(文部科学省方針)

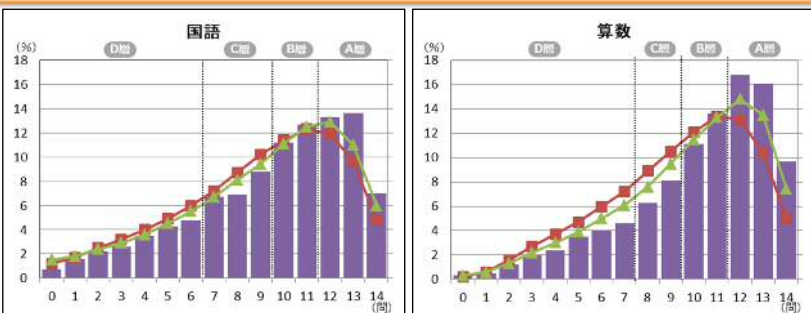
6 教科に関する調査の結果概要

上段 【正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】

下段 【東京都と比較した品川区における各層の割合】 東京都の正答数分布を上位層（A層）から下位層（D層）までを 25%刻みで 4 層に分類し、品川区および全国における各層の割合を示した。

■品川区 ■全国 ▲東京都

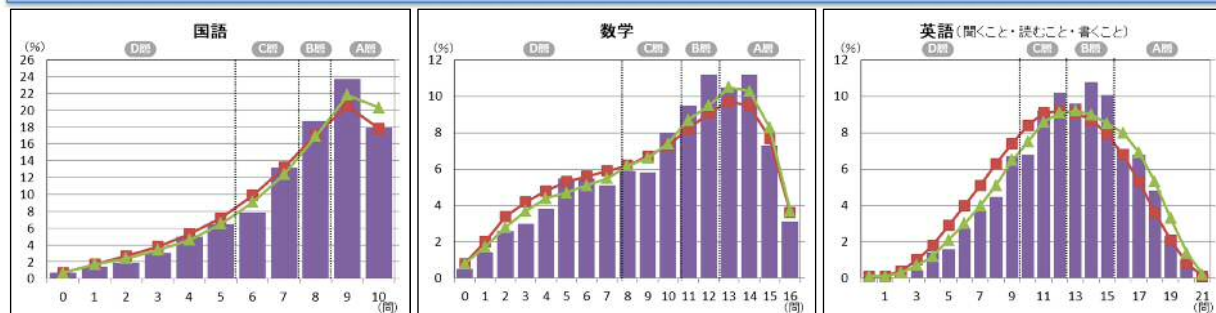
小学校・義務教育学校（前期課程） 第 6 学年



	正答数	品川区	東京都	全国
A層	12~14	33.9%	29.9%	26.4%
B層	10~11	23.9%	23.6%	23.7%
C層	7~9	22.4%	24.2%	26.1%
D層	0~6	19.7%	22.2%	23.5%

	正答数	品川区	東京都	全国
A層	12~14	42.6%	35.7%	28.5%
B層	10~11	24.7%	24.8%	25.5%
C層	8~9	14.4%	17.1%	19.4%
D層	0~7	18.5%	22.4%	26.7%

中学校・義務教育学校（後期課程） 第 9 学年



	正答数	品川区	東京都	全国
A層	9~10	41.6%	42.1%	38.3%
B層	8	18.7%	16.9%	17.1%
C層	6~7	21.1%	21.5%	23.1%
D層	0~5	18.5%	19.3%	21.4%

	正答数	品川区	東京都	全国
A層	13~16	32.1%	32.8%	30.5%
B層	11~12	20.7%	18.2%	17.3%
C層	8~10	19.7%	20.2%	20.2%
D層	0~7	27.4%	28.7%	32.0%

	正答数	品川区	東京都	全国
A層	16~21	22.2%	25.1%	18.7%
B層	13~15	30.5%	26.7%	25.7%
C層	10~12	26.2%	25.2%	26.7%
D層	0~9	21.4%	23.1%	29.1%

★第 6 学年は A 層が東京都や全国に比べて多い。第 9 学年は A 層と B 層の合計が東京都に比べて多い。第 6 学年、第 9 学年ともに D 層は東京都や全国に比べて少ない。

7 課題の見られる問題例（品川区の平均正答率が東京都の平均正答率よりも低い問題例）

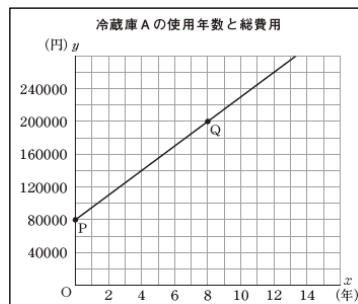
【中学校調査】数学 ⑥ 事象の数学的な解釈と問題解決の方法

⑥(1) 冷蔵庫 A の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点 P の y 座標と点 Q の y 座標の差が表すものを選ぶ。()内は本区の反応率

- ア 本体価格 (4.7%)
- イ 使用年数 (5.3%)
- ウ 1 年間当たりの電気代 (5.2%)
- 正答 エ 購入してから 8 年間の電気代 (38.3%)
- オ 購入して 8 年間使用するときの総費用 (45.8%)

- ・正答率 **38.3%** (都 39.4%, 国 38.8%)
- ・無答率 **0.3%** (都 0.4%, 国 0.3%)

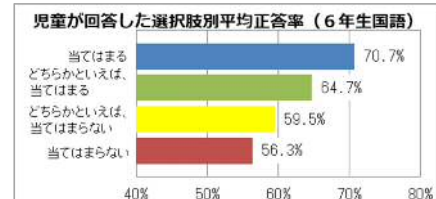
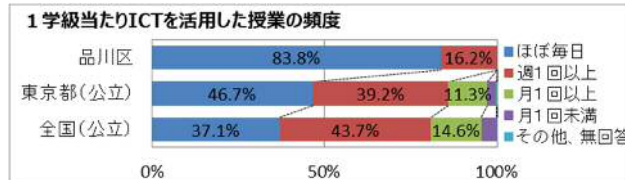
▶事象の数学的な解釈に基づき、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実が求められる。



8 学校質問紙および児童・生徒質問紙と教科のクロス集計例（区内小学校および義務教育学校前期課程 3 7 校による）

【学校質問紙】調査対象学年の児童に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などの ICT を活用した授業を 1 学級当たりどの程度行いましたか。

【児童・生徒質問紙】授業でもっとコンピュータなどの ICT を活用したいと思いますか。



★区立学校では、1 学級当たり ICT を活用した授業がほぼ毎日行われている学校は 8 割以上である。
★授業で ICT 活用したいと思う児童・生徒ほど、平均正答率が高い。

平成31年度「全国学力・学習状況調査」と前年度実施の各種学力調査との類似設問による経年比較

小学校国語

〔平成31年度 全国学力・学習状況調査〕

○第6学年 国語

1 四(2) 高橋さんは、読み手に伝わりやすくするために、【報告する文章】の□□の文を二つの文に分けて書き直すことにしました。文と文をつなぐ言葉には「そこで」を使います。書き直した一文目の終わりの五文字と、二文目の「そこで」に続く五文字をかきましよう。なお、読点(、)も字数にふくみます。

公衆電話を必要などきに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。

【正 答】 思いました(。そこで)わたしは、
と 思います(。そこで)わたしは、

【正答率】 57.1% 【無答率】 10.1%

51.1% (都) 12.7% (都)

47.8% (国) 11.3% (国)

中学校英語

〔平成31年度 全国学力・学習状況調査〕

○第9学年 英語

9 (2) 次の①について、必要があれば()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英語を完成させなさい。

①<朝の通学路で>

A: I watched a baseball game yesterday. It was so exciting.

B: Oh! (like) baseball?

C: Of course. I love playing and watching baseball.

【正 答】 Do you like

【正答率】 77.3% 【無答率】 2.9%

77.8% (都) 4.0% (都)

73.6% (国) 4.4% (国)

〔平成30年度 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査〕

○第5学年 国語

6 (2) 次の文を二つの文に分けることにしました。「しかし、」でつながるように二つの文に分けたとき、一文目の終わりをどのように書き直せばよいでしょうか。書き直した一文目の終わりの六文字を書きましよう。なお、「、」や「。」も字数に数えます。

ふだんからせきやくしゃみが出るときは、マスクをすることが大切で、マスクがない場合は、顔を他の人に向けないようにして、ティッシュやハンカチなどで口と鼻をおおいましよう。

【正 答】 が大切です。

【正答率】 45.4% 【無答率】 12.6%

38.8% (都) 14.2% (都)

〔平成30年度 品川区学力定着度調査〕

○第8学年 英語

9 (2) 次の対話文が成り立つように、□□に入る適切な英文を3語以上の1文で書きなさい。

<友達の家で>

Shiori: I go to school at seven o' clock.

Jim: □□ ?

Shiori: I go there by bus.

【正 答】 How do you go (there [to school])

【正答率】 24.2% 【無答率】 28.4%

17.1% (国)